



## 続く、地下の美術館へ

全長約110kmに及ぶストックホルムの地下鉄は、時に“世界一長い美術館”とも称されることをご存じだろうか。実は、100駅のうち94もの駅でさまざまなアーティストの個性的な芸術作品に触れることができる。各駅の歴史やその街の様子とともに、地下鉄アートを紹介する。

ブルーを基調とした中央駅、T-Centralen(ティーセントラレン)は、パターン化したつる性の植物をモチーフにしたデザイン。



# Metro Art

大迫美樹＝文  
Text by Miki Osako  
机 宏典＝撮影  
Photo by Hironori Tsukue



- 1 アーティストのウルリック氏とアルネ・フレデリクソン氏が手掛けた天井絵。細胞などをモチーフにしたデザインが特徴的。
- 2 壁に飾られた半身像のレプリカ。
- 3 ほとんどが本物という貴重なマカロス宮殿の装飾品やその断片など。
- 4 ホームは歴史的な像や装飾品で埋め尽くされ、厳かな雰囲気。



## Blå linjen Kungsträdgården マカロス宮殿の世界へと誘う 王立公園駅



駅の入り口には、「Riddarhuset」の屋根にある戦士の像を再現したものが飾られている。

歴史と伝統をもつスウェーデン。この国では一九三七年以降、公共建築物の建設費用の一部を必ずパブリックアートに割くことが決められており、現在もストックホルムでは二％の費用が芸術に使用されている。街中を散策すると、さまざまな公共の場で芸術作品を目にすることができるとはこのためだ。ストックホルムの地下鉄は一九五〇年に開通し、グリーン、レッド、ブルーの三路線がある。五〇年代に造られたグリーンラインは、都心部以外の駅が地上にあり、駅全体が正方形のタイルで覆われているのが特徴だ。レッドラインの大部分が建設された六〇年代に入ると、技術の進歩により、多くの駅が地下に造られ、駅の岩盤は厚手のコンクリートで覆われた。七〇年代にはレッドラインの延伸工事が

行われ、ブルーラインの駅も完成した。それらの駅は、削った岩盤壁を当時の新技術の吹き付けコンクリートで覆うことで洞窟のような雰囲気を作り出したため、洞窟駅と呼ばれた。行われ、ブルーラインの駅も完成した。それらの駅は、削った岩盤壁を当時の新技術の吹き付けコンクリートで覆うことで洞窟のような雰囲気を作り出したため、洞窟駅と呼ばれた。

### な

かでも見応えのある洞窟駅の一つが、キングストレードゴーデン駅だ。パブリックアートの第一人者ウルリック・サミュエルソン氏がアートを手掛け、一九七七年に完成した。

キングストレードゴーデンとは駅の真上にある王立公園を意味する。ストックホルムの中心部に位置する王立公園は、一五〇〇年代まで王の個人庭園として使用されていた歴史をもつ。ウルリック氏は、地上にある王立公園と、遠い昔

### 街

中で目に留まる地下鉄の駅の目印「T」の看板。そこへ吸い込まれるように地下へと流れていく人々。ストックホルムでの暮らしを支える重要な交通手段である地下鉄は、日々、足早に走り去る乗客で溢れている。

子どもにアートを教えて機嫌をとる親、電話をかけるながらなにげなくアートの視線を向けるビジネスパーソン……。ストックホルムの地下鉄アートは、その街に暮らす人々の目を惹きつけ、せわしい日常に一瞬の癒やしを与えてくれる存在なのだ。

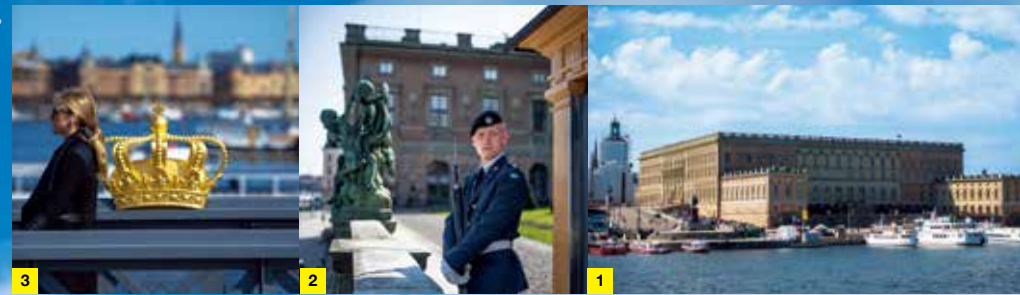
実は、パブリックアートに長い



© AB Storstockholms Lokaltrafik Version 2018.06.27



- 1** 公園前の対岸には観光で人気の王宮が。王族の居室の見学が可能で、王室の歴史を展示する博物館などもある。
- 2** 王宮周辺には、たくさんの衛兵が駐在し警護している。
- 3** 王立公園から徒歩の距離にある小さな島、シェップスホルメン島には近代美術館がある。島へ渡る橋には王冠の装飾があり、そこから王宮を望むこともできる。



がる。ここはストックホルムの最古の公共公園の一つだ。春には日本から贈られた八重桜が咲き誇り、大勢の人の目を楽しませている。

また王立公園前にある水辺の対岸には王宮を望み、中世の街並みが残る旧市街地が広がる。駅を訪れた際には、駅のアートに想いを馳せながら王立公園でのんびり過ごしてみたいだろうか。そこから王宮に足を延ばし、旧市街地を散策するのもまたいいだろう。

当時、市民はマカロス宮殿の外観や美しい装飾を眺め、その享受にふけていたという。ウルリック氏は、駅という気軽に訪れることができる場所に、マカロス宮殿の装飾品を飾ることで、当時のように人々を喜ばせたかったのかもしれない。

駅から地上に上がると、市民の憩いの場である王立公園へとつながる。

壁にかかる男女の半身像やマスカロンは、マカロス宮殿に飾られていたものを再現。一六四三年に完成したマカロス宮殿は、その時代ではほかに比類のない豪華さで市民を魅了したと伝えられている。駅の出口に続く通路の下には宮殿の装飾品が置かれ、大部分はかつて宮殿で飾られていた本物だというから驚きた。

駅構内の赤、白、緑のカラーは、バロック様式庭園の特徴である赤い砂利道、白い大理石の彫刻、バルテール（整形花壇）に由来したもので、かつて地上にあったというバロック様式の美しい庭園を彷彿とさせる。

に公園の敷地内に建てられていたマカロス宮殿の歴史を基に駅をデザインしたという。

駅に一步足を踏み入れると、たくさんの彫像や宮殿の装飾品が随所に飾られ、まるで美術館のような空間が広がっている。

お花見や日光浴など市民の憩いの場、王立公園。冬にはアイススケートリンクが登場する。